

丹波地域の集落活性化に関するアンケート 調査報告書

第 部：篠山市・丹波市別の状況

第 部：集落タイプ別の状況

平成21年(2009)3月

(財)兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所

協力：兵庫県立人と自然の博物館

目 次

はじめに	2
アンケートの概要	2
この報告書の読み方	2
第 部：篠山市・丹波市別の状況	
- 1 . 集落における様々な問題の発生状況について	4
- 2 . 集落における土地の使われ方について	5
- 3 . 家族および集落の動向について	7
- 4 . 地域資源について	11
- 5 . 農地の自己管理について	12
- 6 . 集落における自治会組織や小学校区運営について	14
- 7 . 集落の活動について	17
- 8 . 集落のこと、およびあなたご自身のことについて	21
第 部：集落タイプ別の状況	
- 1 . 集落における様々な問題の発生状況について	26
- 2 . 集落における土地の使われ方について	27
- 3 . 家族および集落の動向について	29
- 4 . 地域資源について	33
- 5 . 農地の自己管理について	34
- 6 . 集落における自治会組織や小学校区運営について	36
- 7 . 集落の活動について	39
- 8 . 集落のこと、およびあなたご自身のことについて	45
(参考資料)	
「丹波地域の集落活性化に関するアンケート(票)」	49

はじめに

地方の中山間地をはじめ多自然居住地域の人口減少や経済停滞などが進んでいるが、そのような地方の後退を象徴的に示す言葉がいわゆる「限界集落」である。

国土の大半を占める多自然居住地域を支える集落を巡る問題は国民全体にとっても重要であり、今後、ますます大きな問題になっていく可能性がある。

丹波地域ではこれから直面するであろう集落問題に先手を打って集落全体の活性化への取組が始まりつつあり、集落で今何が問題か、集落が今何をなすべきかを探ることが課題となっている。このアンケート結果が、これらの課題解決へのヒントになれば幸いである。

最後に、お忙しい中、このアンケートにご協力いただいた丹波地域全域の集落の自治会長さんをはじめ関係者の方々に、心からお礼を申し上げます次第です。

アンケートの概要

アンケート実施期間：平成19年（2007）11月～12月

配布・回収方法：両市広報紙と同時に配布し、郵送で回収（督促葉書1回実施）

配布数：570集落（丹波地域（篠山市・丹波市）の全集落（自治会））

有効回答数：440集落（有効回答率：77.2%）

* 市域別内訳：篠山市側：205集落（46.6%）

丹波市側：226集落（51.4%）

空白（市不明）：9集落（2.0%）

各市域での投函（消印）は、その市域の集落とみなした。

* 集落タイプ別内訳

前回（1999年調査）
（集落が判断して回答）

今回（2008年調査）

（調査事務局で統計データ・住宅地図などから総合的に判定）

.住宅集落

住宅集落：30集落（8.2%）

.商業集落

.町型集落：46集落（12.6%）

農業集落

-1 純農業（純農村）集落：213集落（58.5%）

-2 農住混合集落：75集落（20.6%）

（農業系集落 = -1+ -2 = 288集落（79.1%））

合計：364集落

《参考：この間の変化》

・かつての商業集落の多くは商店街が急速に衰退し、ほとんどが住宅街に近づいている。

・農業集落の一部では新しい住宅が増え、農家と新興住宅とが混合している。

（注）（財）兵庫丹波の森協会 丹波の森研究所では、10年前にも丹波地域の全集落を対象に同様のアンケート調査を実施している。

この報告書の読み方

この「報告書」は 部・部共にほぼ同じ構成なので、必要に応じて両者を対比して読むのがいいと思われる（「One Point.」の番号は、部・部に共通）。

また、回答集落数を100%として回答率を示す。そのため、複数回答の場合は、合計が100%を超えることもある。

第 部 篠山市・丹波市別の状況

第 部 篠山市・丹波市別の状況

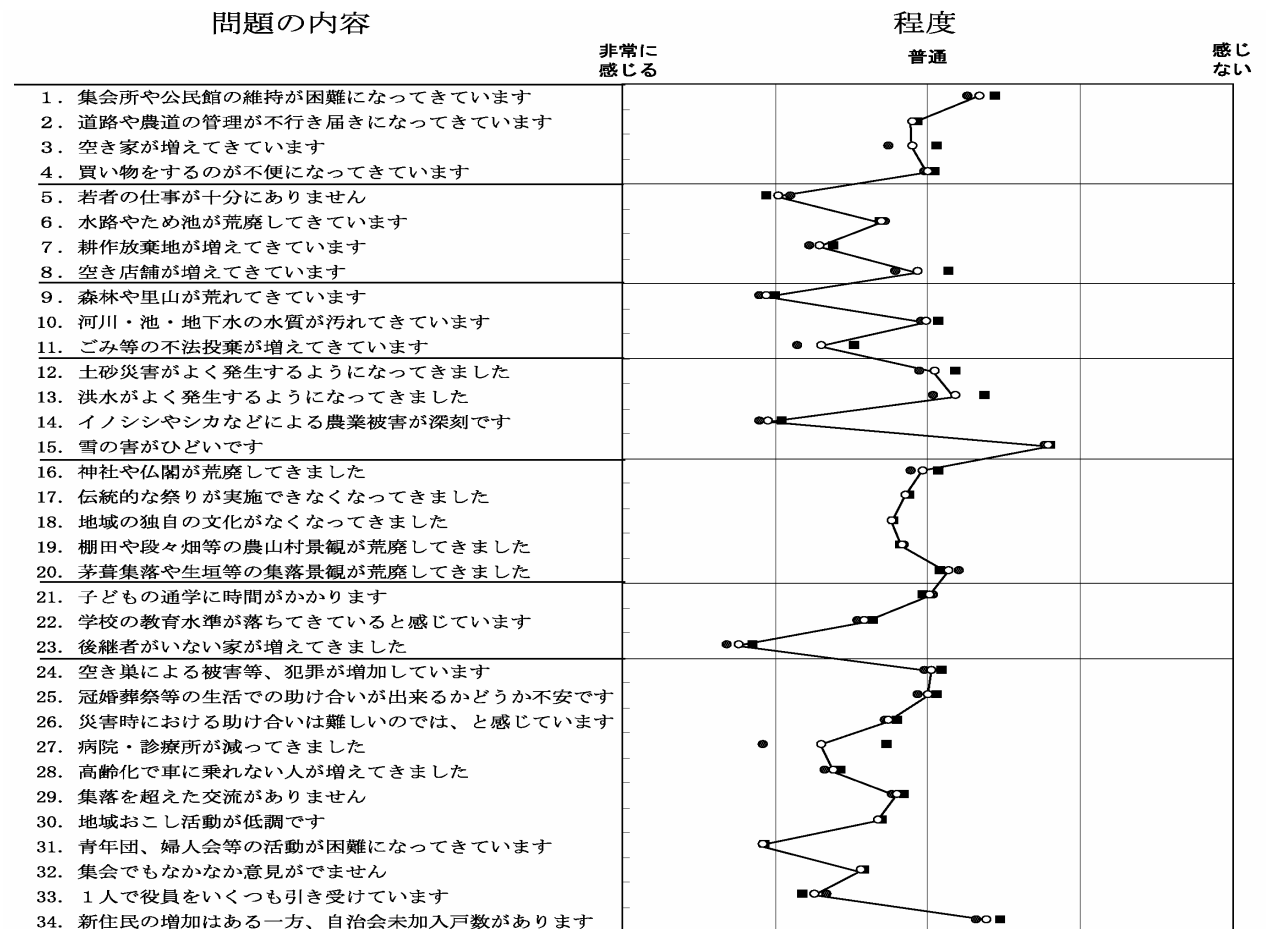
- 1 . 集落における様々な問題の発生状況について

OnePoint. ゆらぐ集落の安心と安全

集落が抱える問題として「後継者がいない」「森林や里山が荒れている」「イノシシなどの農業被害」「青年団・婦人会等の活動困難」「若者の仕事が少ない」などが指摘され、集落の安心と安全の基盤が揺らぎ始めていることがうかがえる。

両市の状況を比較すると、「医療」「ごみの不法投棄」「空き家」「空き店舗」「洪水発生」の項目で違いがみられ、いずれも丹波市側でやや顕著に感じられている。

問1. 貴集落では、以下の問題や現象がどの程度、発生していますか？ 以下の34項目それぞれについて、「非常に感じる」から「感じない」の5段階のうち、いずれかに印をお付けください。



● 丹波市
■ 篠山市
○ 全体

- 2 . 集落における土地の使われ方について

OnePoint. 各集落で、平均3軒の「空家」が発生

各集落に、3軒程度の空き家がある。

問2 - 1 . 貴集落における「空き家の戸数」と「放棄田畑の面積」を、おおよそでお答えください。

< 集落の空き家の戸数(軒) >

	平均戸数
篠山市	3.27
丹波市	3.51
(空白)	3.00
総計	3.39

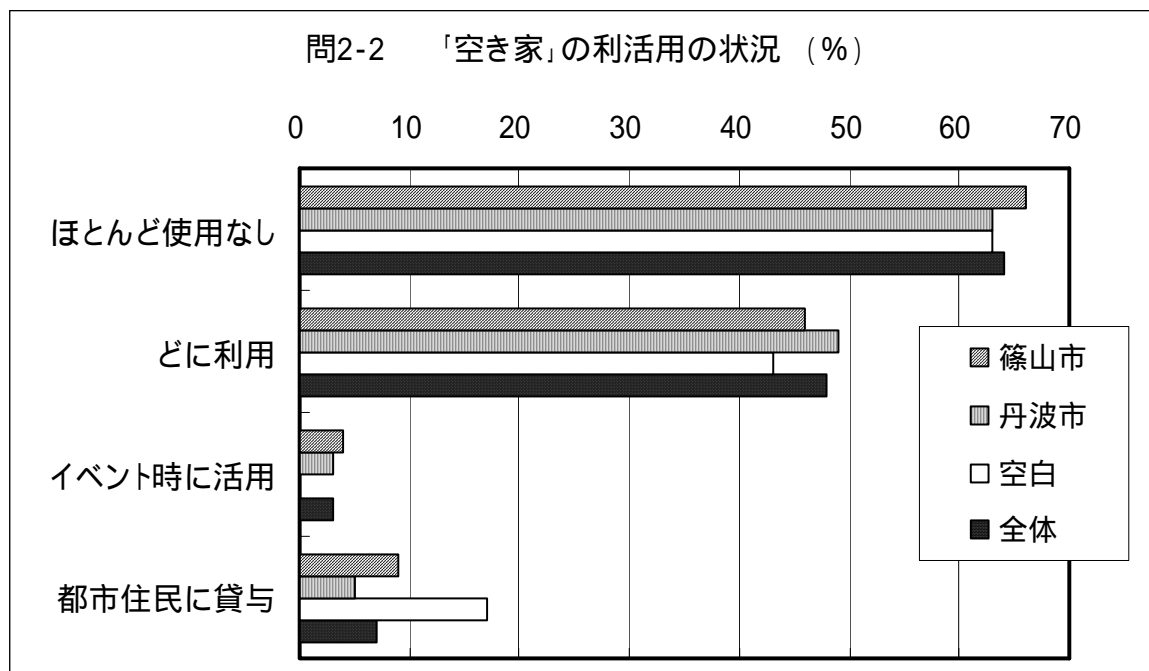
(空白) = 未記入 (= 不明。以下同じ)

(問2 - 1.の「放棄水田の面積」については、省略)

OnePoint. 進まない「空家」の利活用

6割強の集落で「ほとんど使用されていない」空き家があり、それと並んで「帰省時などに利用される」空き家がある集落も半数近くに達する。

問2 - 2 . 「空き家」「放棄田畑」の利活用の有無について、「ある」ものには、「ない」ものには×でお答えください。

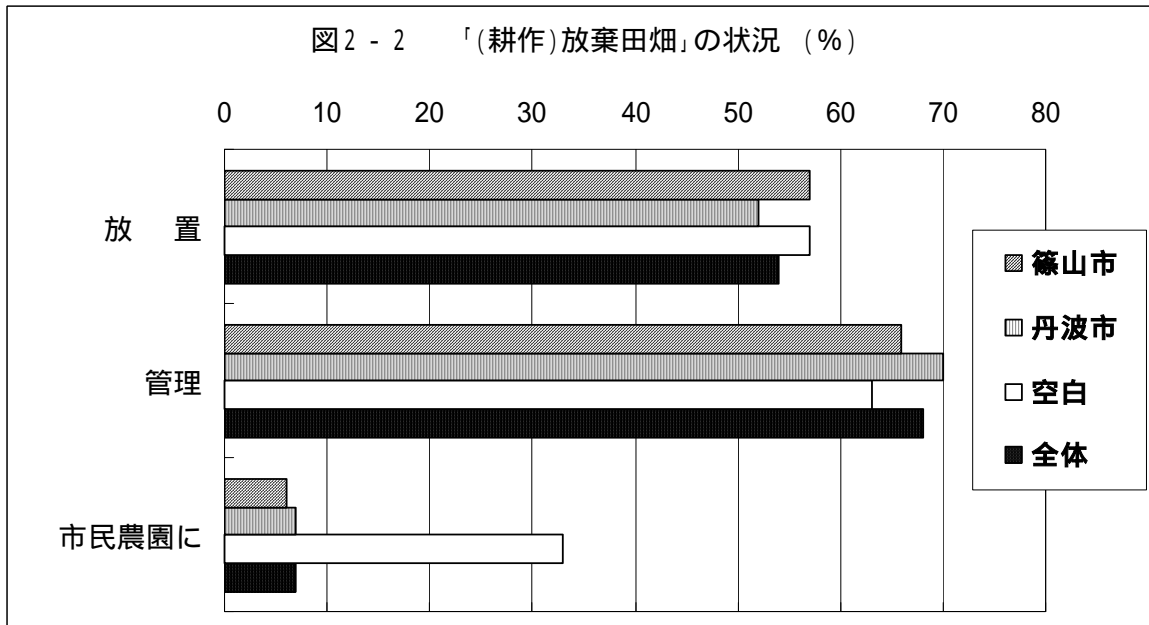


アンケートへの回答集落数を、「100%」としている。

また、複数回答の場合は、合計が100%を超えることがある。(以下同じ)

OnePoint. (耕作)放棄田畑の「放置」は、半数余の集落に

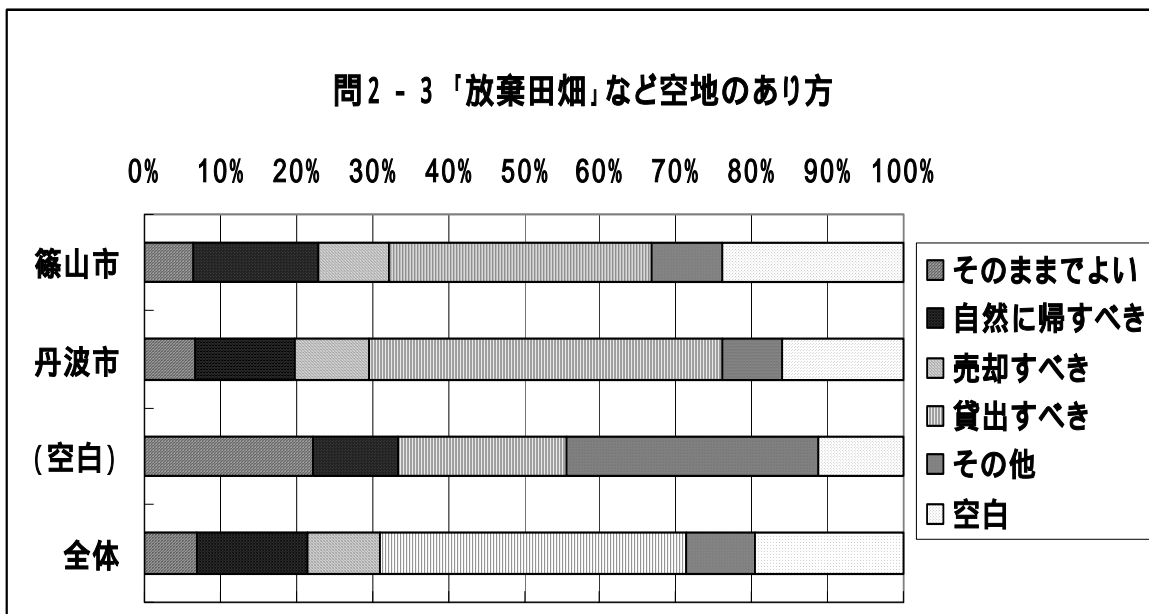
「放置」された(耕作)放棄田畑があるのは集落の50%余り、さらに何らかの形で「定期的に管理」されている放棄田畑がある集落になると70%近くに広がる。



OnePoint. 空地は「貸出す」が多いが、「自然に帰す」も・

「放棄田畑」などの空き地は40%の集落で「貸し出すべき」としており、丹波市側でやや多い。一方で「自然に帰すべき」も10%余あり、篠山市側でやや多い。

問2-3. 「放棄田畑」など、使われていない空き地などの今後のあり方について、どのように考えますか？ 当てはまる番号1つに 印をお付けください。

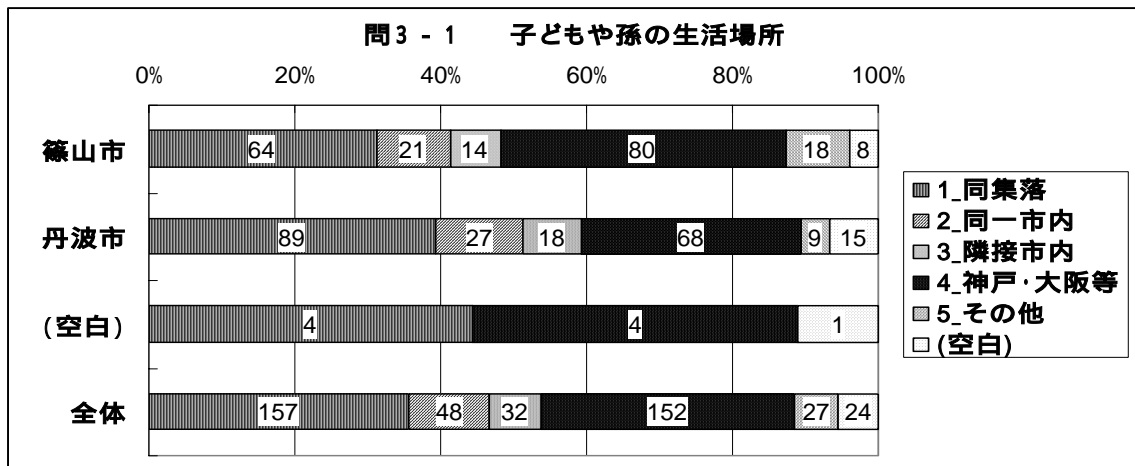


- 3 . 家族および集落の動向について

OnePoint. 子どもや孫は、「同集落」「神戸・大阪」が並ぶ

現在の子どもや孫の生活場所は、「同集落」が30～40%であるが、「神戸・大阪」もほぼ同程度ある。丹波市側で「同集落」が、篠山市側で「神戸・大阪」がやや多い。

問3 - 1 . あなたのお子さんやお孫さんなどの現在の生活場所並びに帰村意識について、それぞれ当てはまるものを1つ、以下の中から選び、番号に 印をお付けください。

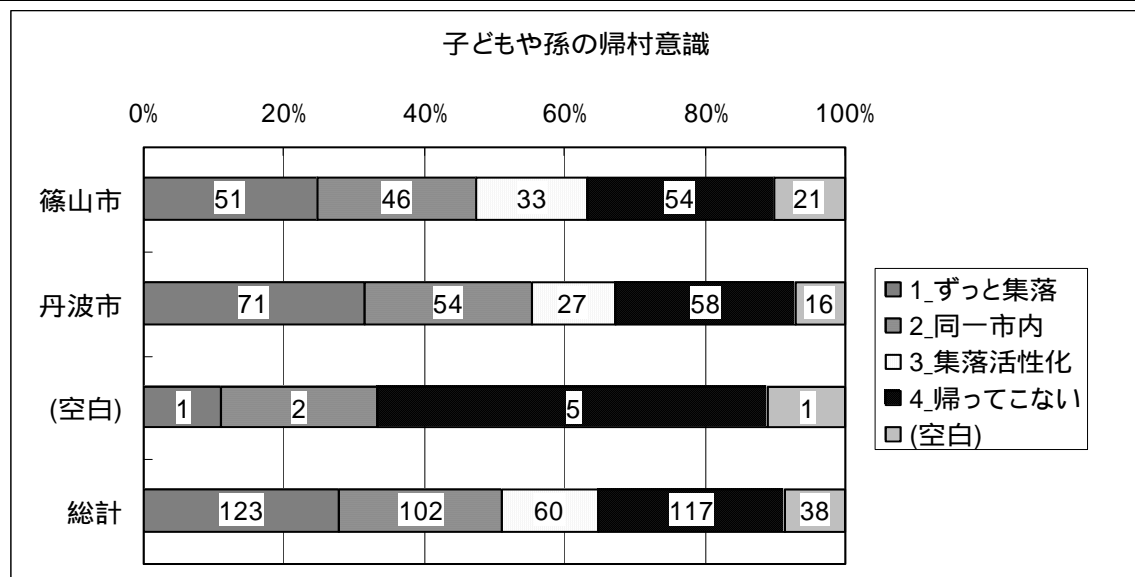


OnePoint. “子どもや孫たちと住める”見込みは65%

子どもや孫の帰郷（帰村）意識では、「ずっと集落内に居住」「いずれは集落や同一市内に帰る」が計50%あり、「集落が活性化すれば帰る」が15%弱で、これらを合わせて65%近くが同一市内を含めて帰郷の可能性があると期待している。

一方「帰ってこない」という見通しが、25%強ある。

丹波市側で「ずっと集落内に居住」が、やや高くなっている。



OnePoint. “集落へ戻り移住する条件”は 「働く場」「子育て環境」「交通利便性」「生活施設」

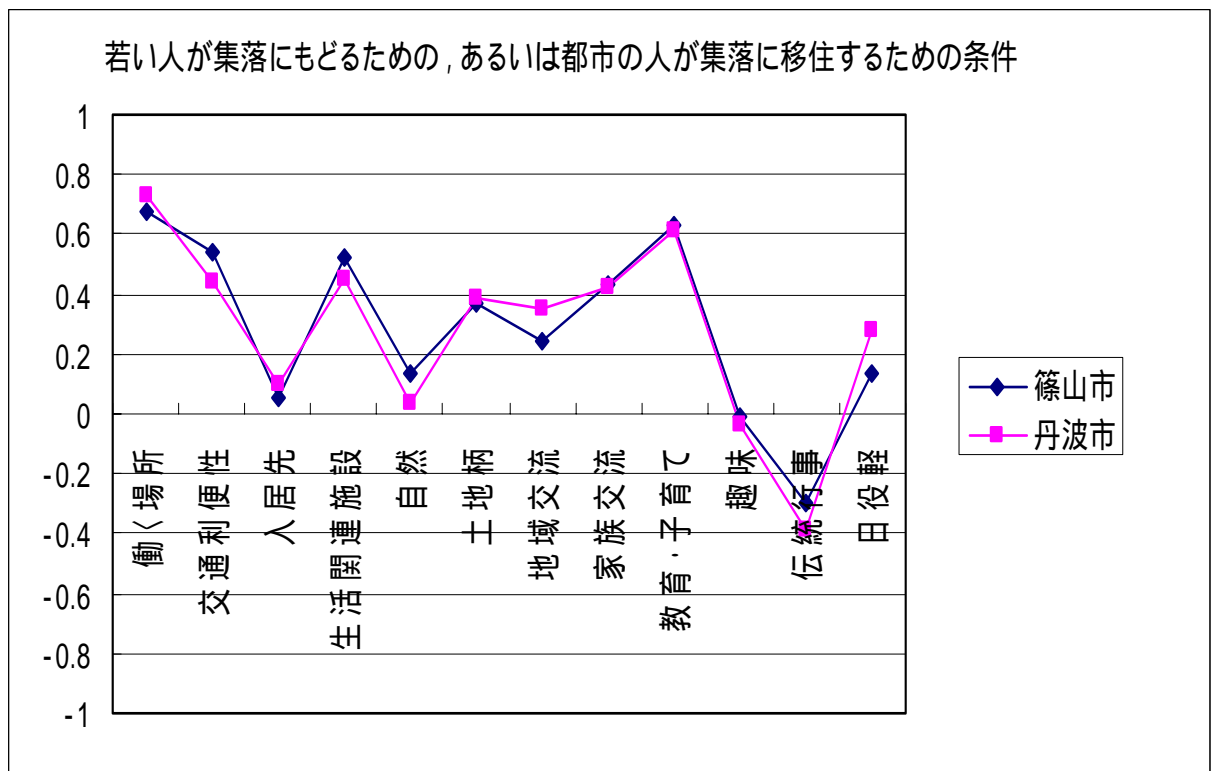
集落に若い人が戻り都市住民が移住してくる条件としては、「働く場所」「教育・子育て」「生活関連施設」「交通の利便性」「家族との交流」「土地柄（雰囲気が良い）」などがあげられている。

両市でやや異なるのは「地域の人達との交流」「日役（ひやく＝集落環境を保全するための共同作業）を軽く」で、丹波市側の方でこれらがより必要と考えられている。

また、都市住民が丹波地域について評価している「自然が豊富」は、集落へ戻り移住する条件としてはそれほど重視されていない。

なお、これらは受け入れ集落側の見方であることに留意しておく必要がある。

問3 - 2 . 血縁関係のある若い方々が集落に戻ってくる条件、あるいは都市住民が集落に移住する条件について、以下の12項目それぞれについて、「当てはまる」「やや当てはまる」「当てはまらない」の3段階のうち、当てはまる番号に 印をお付けください。



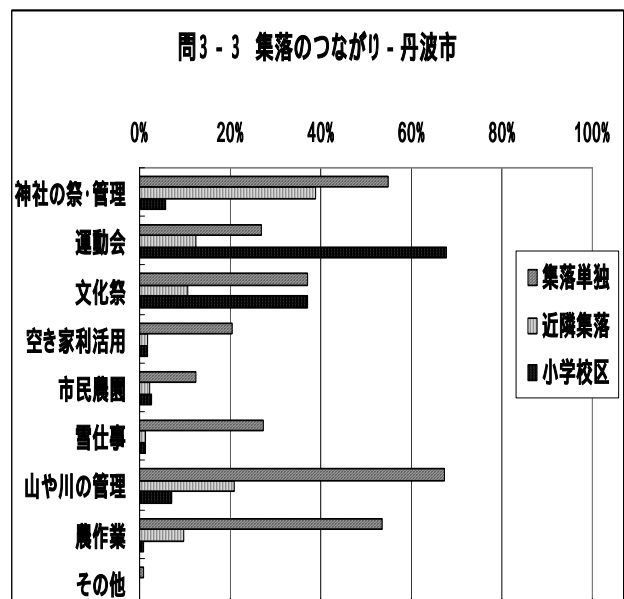
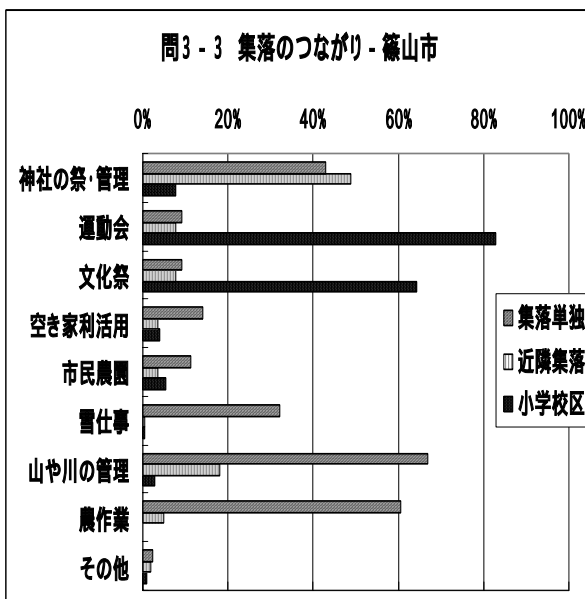
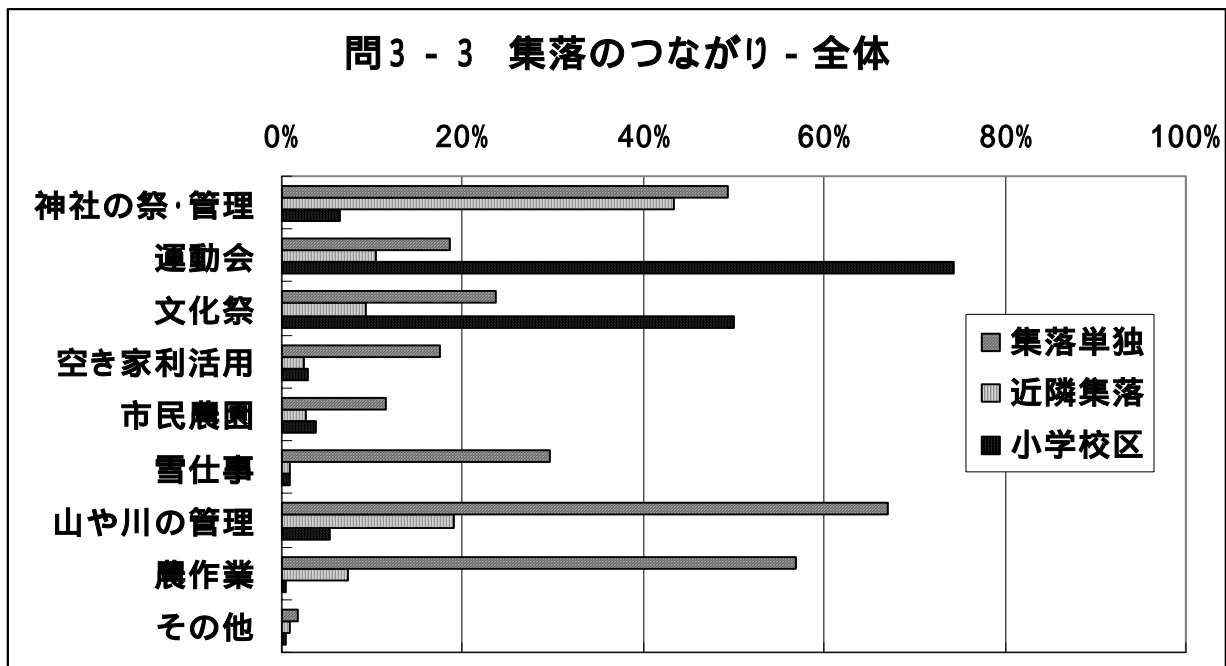
(注) 左の軸の点数が高いほど「当てはまる」という意向が高い。

OnePoint. まだ十分に進んでいない“ 集落間連携 ”

催しなどを通じて集落間のつながりをみると、「神社の祭・管理」は集落単独と近隣集落とが半々。「運動会」は小学校区で行うのが主流だが、「文化祭」は篠山市側では校区で行うがかなり多く、丹波市側では集落単独と校区とが半々となっている。

「山や川の管理」「農作業」「雪仕事(雪かきなど)」は、大半は集落単独で行っている。また、「空き家の利活用」「市民農園」は取り組んでいるケースが少なく、取り組む場合は集落単独である。

問3 - 3. 集落同士の繋がりについてお伺いいたします。以下の項目について、自治会単独で行っているもの、もしくは他の集落と協力しあって実施している項目に 印をお付けください。

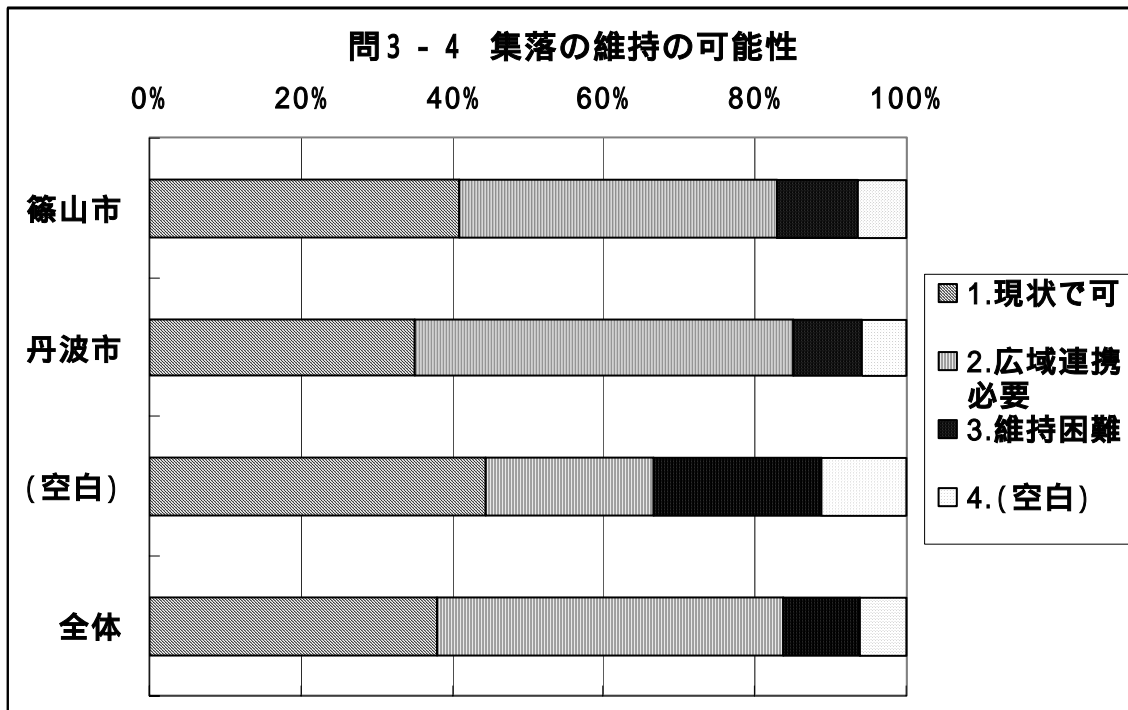


OnePoint. 今後の集落の「維持 困難」が、約1割

集落の維持について、「現状でよい」と「広域連携が必要」とが各々40%ずつあり、篠山市側で「現状でよい」がやや多く、他方、丹波市側で「広域連携が必要」とする意向がやや高い。

さらに、10%程度の集落では「集落の維持」が困難と考えている。その数は、丹波地域全体で50～60集落になるとみられる。

問3 - 4 . 集落の今後について、当てはまるものの番号1つに 印をお付けください。



- 4 . 地域資源について

OnePoint. 集落の強み = 「人間関係」「食べ物」「自然環境」!

“良好な人間関係” “食べ物がいよこと”、そして“自然環境のよさ”が集落の強みとしてあげられている。

問4 - 1 . 集落の活性化を今後も推進する上で、貴集落の「強み」と「弱み」について、それぞれ3つお答えください。

「強み」としてあげられたことがら（件数）

	篠山市	丹波市	総計
人間関係がよい	95	113	208
自然環境がよい	43	56	99
食べ物がよい	76	76	152
交通がよい	35	35	70

（その他：自給率が高い、自己完結型農業、イベントが多いなど）

（問4 - 1の「弱み」及び問4 - 2は省略）

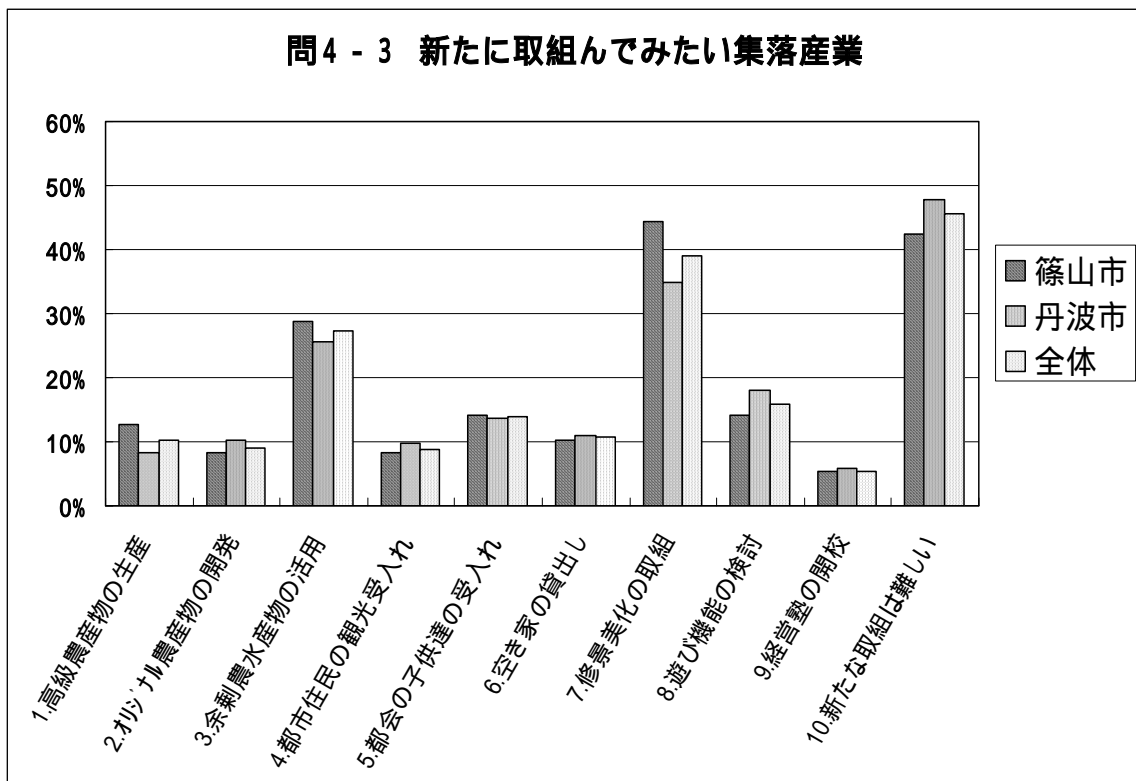
OnePoint. 高い「修景美化」への意欲

集落産業については、まず「新たな取組は困難」とする集落が半数近くだった。

一方、取り組もうという集落では、「修景美化」が約40%と高く、続いて「余剰農水産物の活用」が約30%で多い。

「修景美化」への意欲は、篠山市側でやや高い。

問4 - 3 . 今後、集落産業として新たに取組んでみたい事業について、以下の中から3つに 印をお付けください。



- 5 . 農地の自己管理について

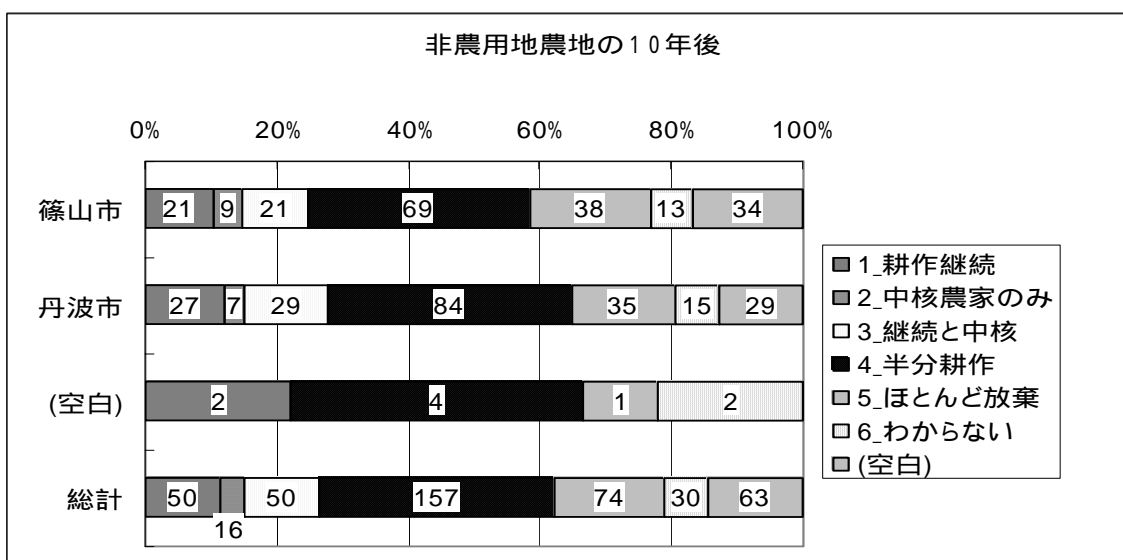
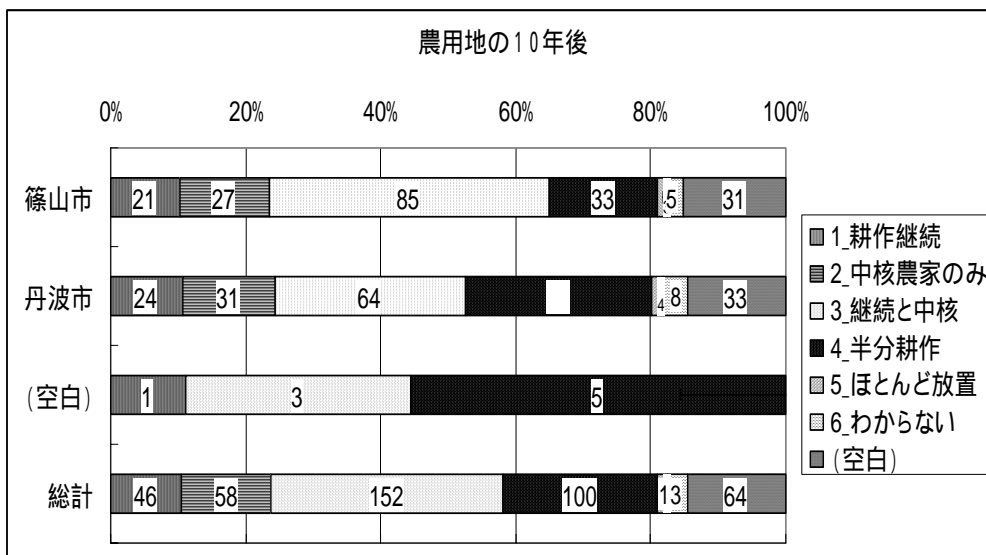
OnePoint. 非農用地を中心に、将来は「耕作放棄」の拡大も

“農用地”管理の今後は、現状どおり「各農家が耕作継続」や「ほとんどが中核的農家への委託」は共に10%前後で、「各農家の耕作継続と中核的農家への委託とが半分ずつ」が35%で最も多く、続いて「半分程度が耕作継続・・・、残りは荒れている」が20%強で、これの半分10%が耕作継続とみなすと、以上からの“耕作継続”見通しの合計は約70%になる。一部は荒れているものの、概ねは“耕作継続”との見通しといえよう。

篠山市側で「・・・耕作継続と中核的農家・・・とが半分ずつ」がやや多く、丹波市側で「半分程度が耕作継続・・・、残りは荒れている」がやや多かった。

一方、“非農用地”は、上記の“耕作継続”は45%程度にまで下がり、“農用地”ではゼロに近かった「ほとんどが耕作されず荒れている」が20%弱に増える。

問5-1. 貴集落では農地は、10年後、どうなっていくと思われますか？ 農用地 と 農用地以外の土地 について、それぞれ当てはまる番号1つに 印をお付けください。

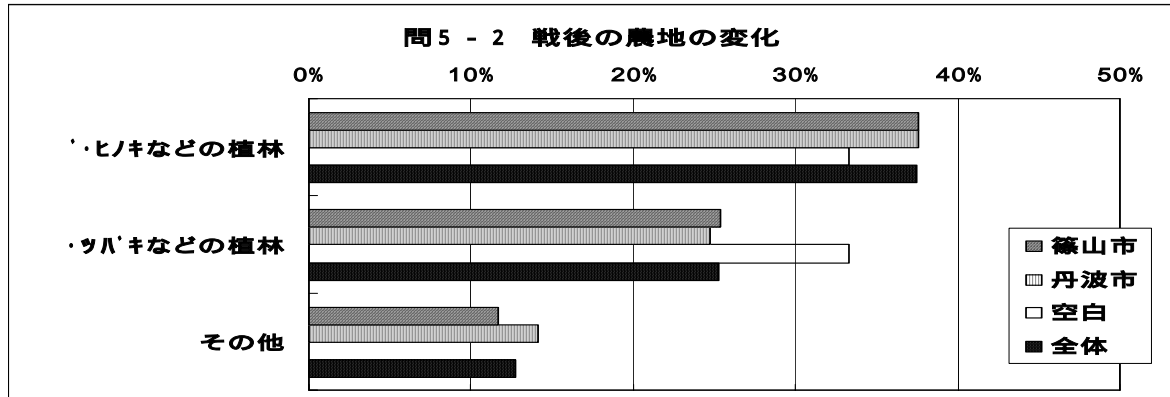


OnePoint. 戦後から、農地の一部は「植林地」に

戦後からの変化として、「スギ・ヒノキなどの植林」となった農地が40%近くの集落にあり、「クリ・・・などの植林」なった農地も25%の集落にある。

このように、今まで耕作困難な農地を「植林地」に転換することが行われてきたようだ。

問5-2. 戦後からの農地の利用について、当てはまる番号**すべて**に 印をお付けください。

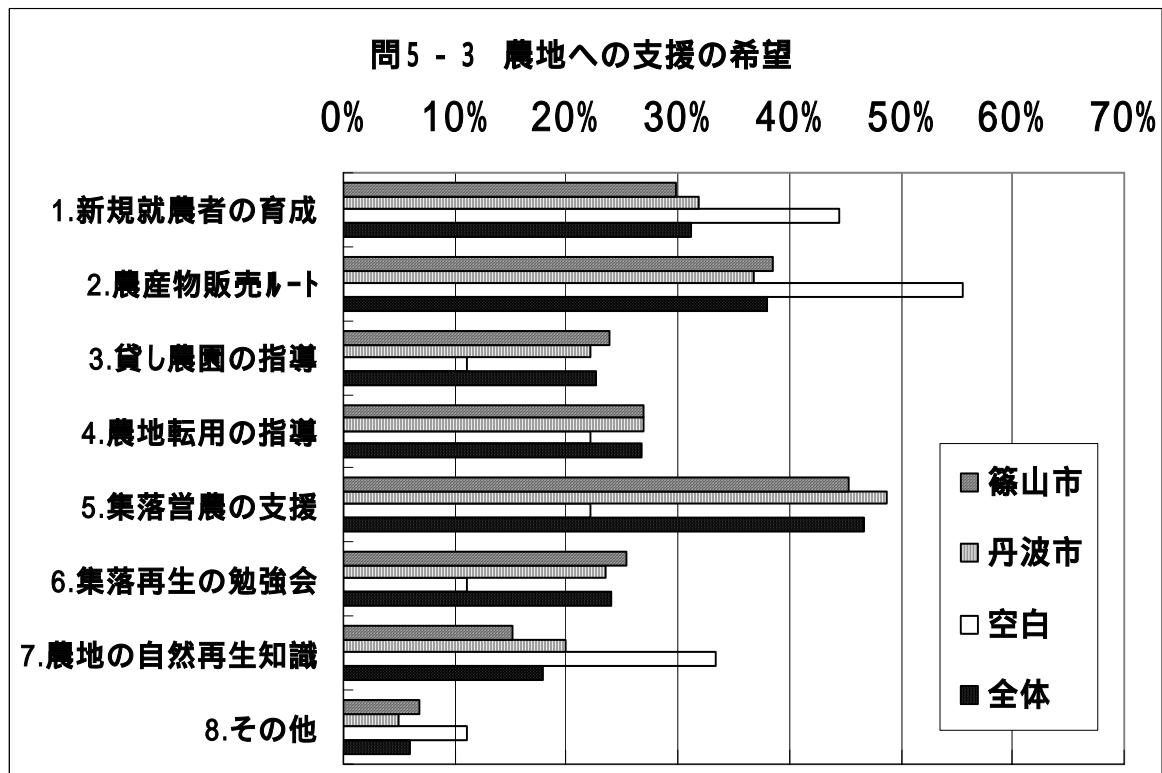


OnePoint. “多様化”する農地への支援希望

農地関係への支援として、「集落営農の支援」「農産物販売ルート」「新規就農者の育成」への希望が各々30%を超え多いが、他の各項目はいずれも20%前後で並ぶ。

農地関係への支援希望は、多様化の傾向がうかがえる。

問5-3. 農地に関して、あなたはどのような支援を望まれますか？ 特に当てはまるもの**3つ**に 印をお付けください。



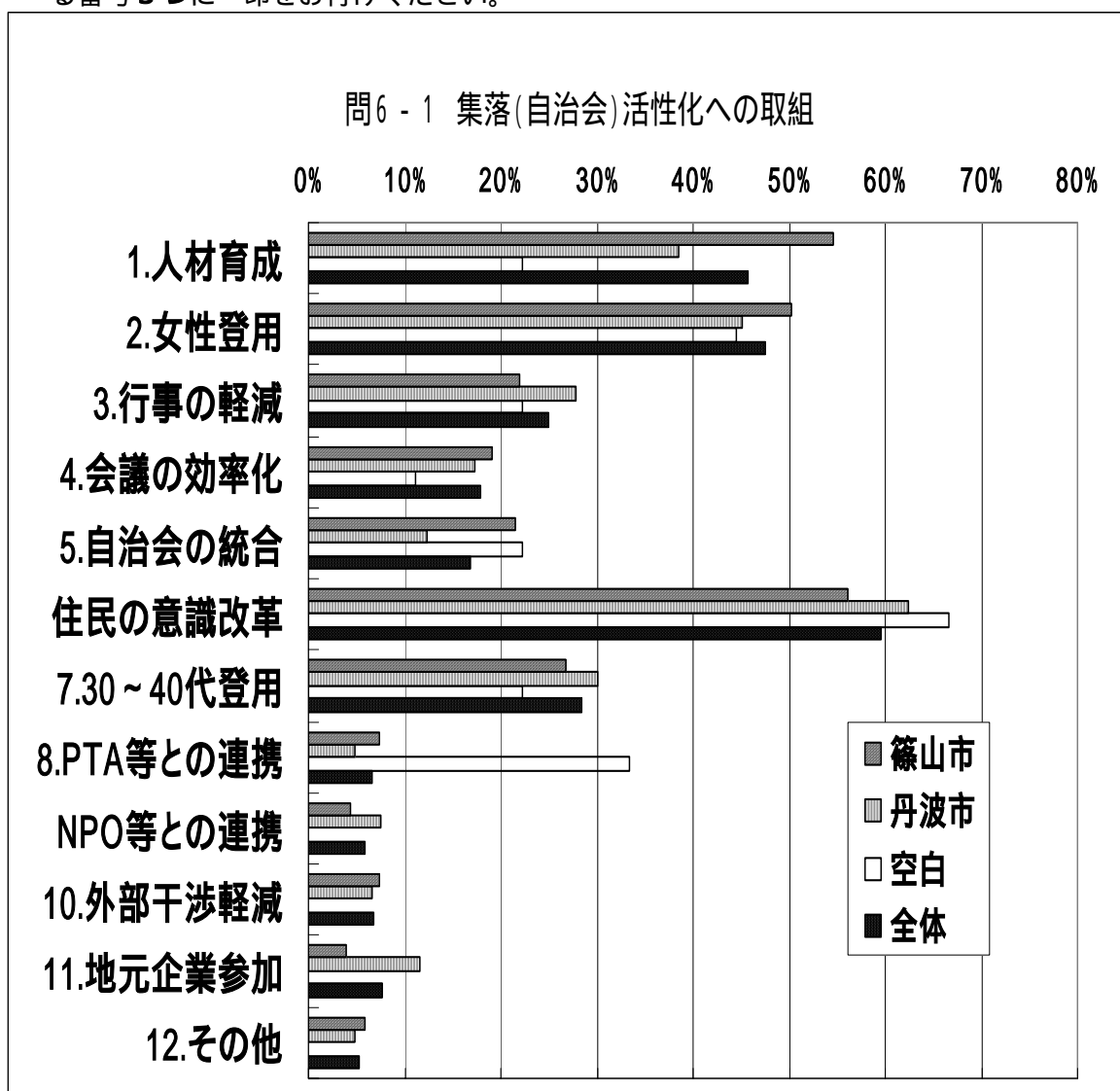
- 6 . 集落における自治会組織や小学校区運営について

OnePoint. 「意識改革」「女性登用」「人材育成」が
集落活性化の“鍵”か

「意識改革」「女性登用」「次期役員等の人材育成」が、いずれも40%を超えて必要とされている。さらに、「30～40代の登用」「行事の軽減」が20～30%で続く。
一方、集落活性化のためにPTA・NPO・地元企業など“新たなパワー”との連携は、まだあまり課題になっていない。

篠山市側では、「人材育成」が多い。

問6-1. 今後、自治会組織を活性化する上で必要な取り組みは何ですか。特に当てはまる番号3つに 印をお付けください。

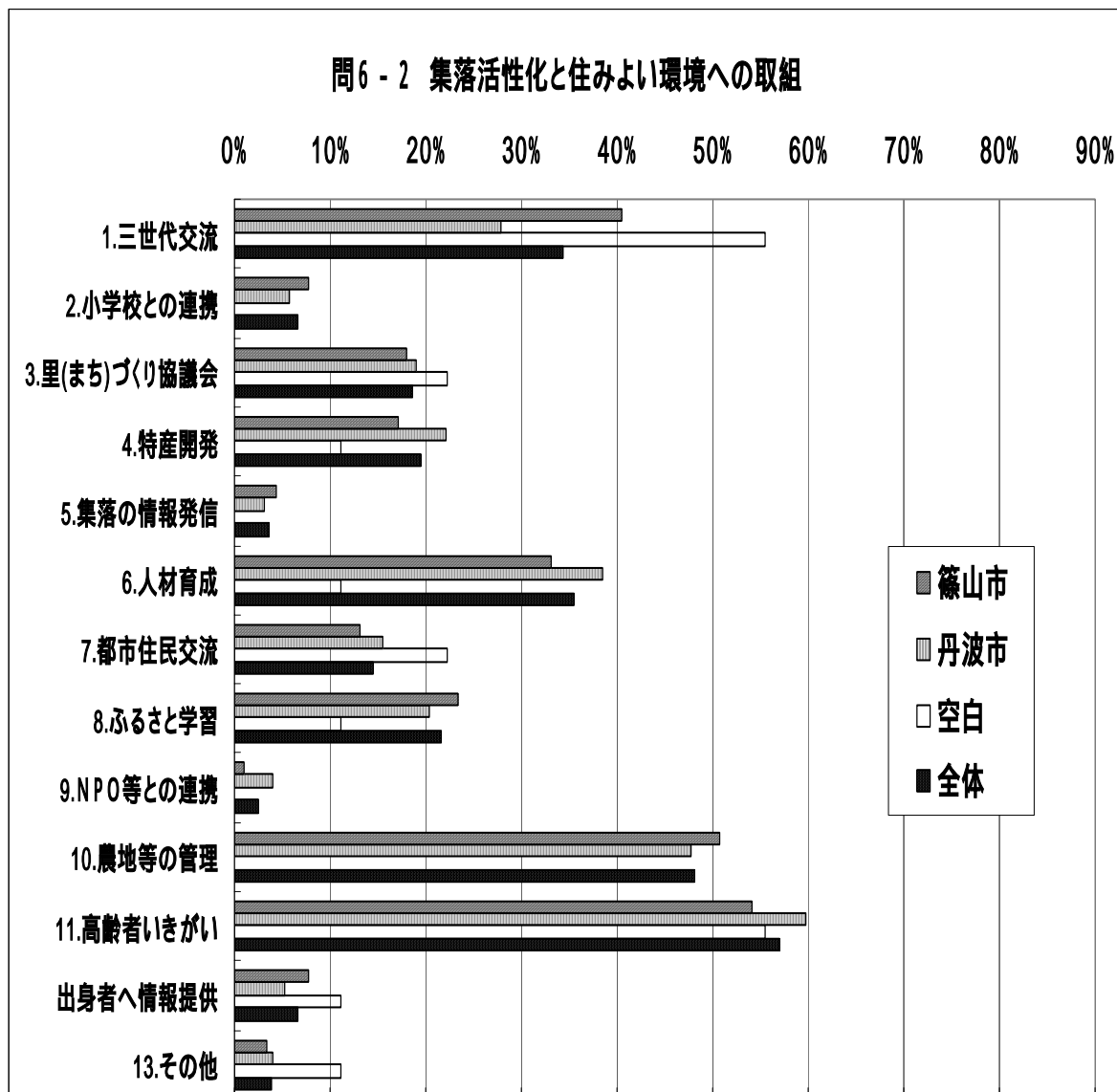


OnePoint. 「高齢者の生きがい」「農地の管理」が必要

集落を活性化し住みよい環境をつくるには「高齢者の生きがい」「農地等の維持管理」が必要とする集落が50%前後と特に高い。次に「人材育成」「三世代交流」が35%前後で続き、さらに「ふるさと学習」「特産開発」「里(まち)づくり協議会」が20%前後となっている。

篠山市側で、「三世代交流」が高い。

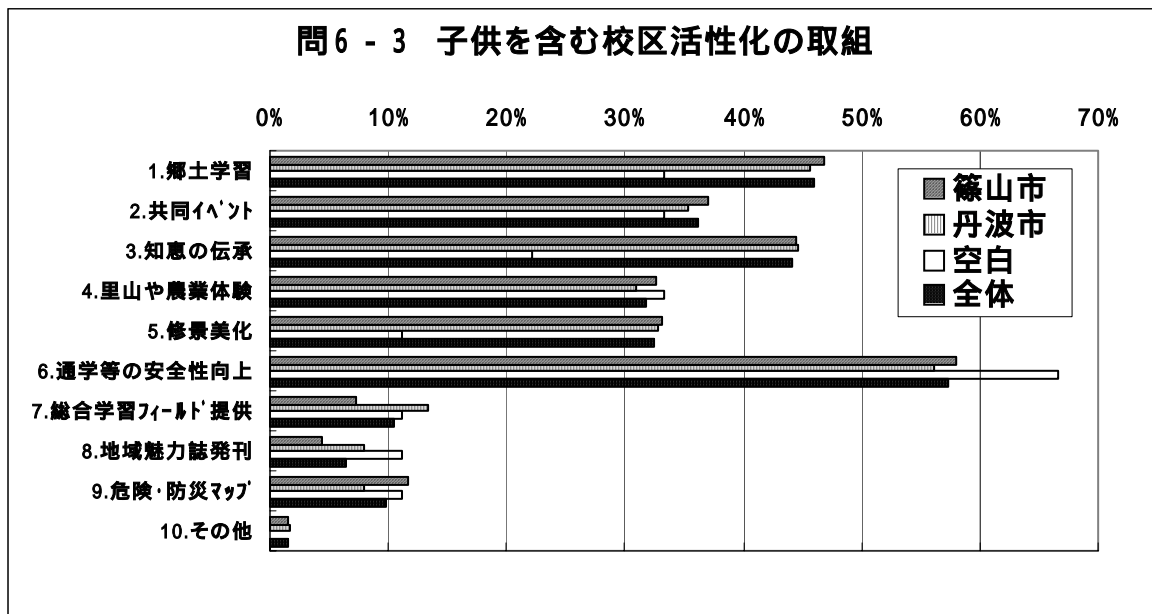
問6-2. 集落を活性化し、より一層、住みよい環境にしていく上で、自治会として必要な取り組みは何ですか。特に当てはまる番号**3つ**に 印をお付けください。



OnePoint. “校区”では、まず「通学路の安全」を

子供を含む校区活性化に向けては、「通学路の防犯等の安全性」が55%強と特に高く、次いで「郷土学習」「知恵や経験の継承」が45%前後、さらに「共同イベント」「修景美化」「里山や農業体験」が30%強で必要性が指摘されている。

問6-3. 子どもを含めた校区の活性化のために、貴集落が小学校と連携して取り組みたい、または取り組むべき方策は何ですか。特に当てはまる番号3つに 印をお付けください。

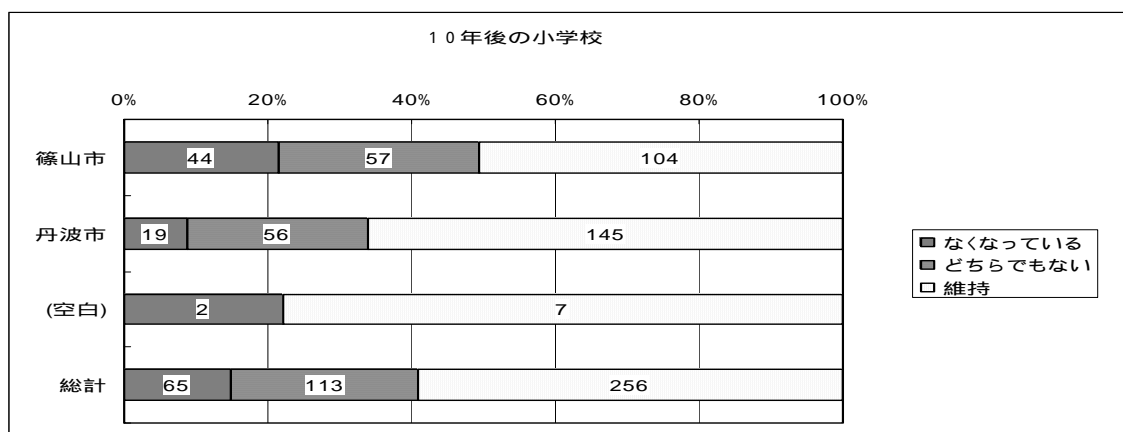


OnePoint. 両市でやや異なる“小学校の存続の危機感”

総じてみると、10年後、地域の小学校は「維持されている」と考えられている。

ただ、丹波市側では「維持される」が60%余りだが、篠山市側では50%程度にとどまり「学校がなくなっている」が20%を超えるなど、小学校存続への“危機感”が強い。

問6-4. 10年後、地域の小学校はどうなっていると思われますか？ 当てはまる番号1つに 印をお付けください。



- 7 . 集落の活動について

OnePoint. 「土手の草刈り」から「将来計画」など、 様々な活動を集落で実施

集落を中心に他の主体も含め実施率が高いのは、「土手清掃や草刈」がトップで、以下順に「伝統行事などの地域文化」、集落内の「環境改善」や「公共施設」「広場等」の利用提案、「廃品回収など資源の再利用」「集落の将来計画づくり」「人工林の管理」などで、いずれも50%を超える。「将来計画」が、上位に入るのが注目される。

問7. ここでは、貴集落で実施されている活動についてお伺いします。
貴集落では、次にあげる地域づくり活動を行っていますか？ それぞれの活動内容について、A欄、B欄のそれぞれの行の番号1つずつに 印をお付けください。

[A欄 現在、主に誰が取り組んでいますか？]

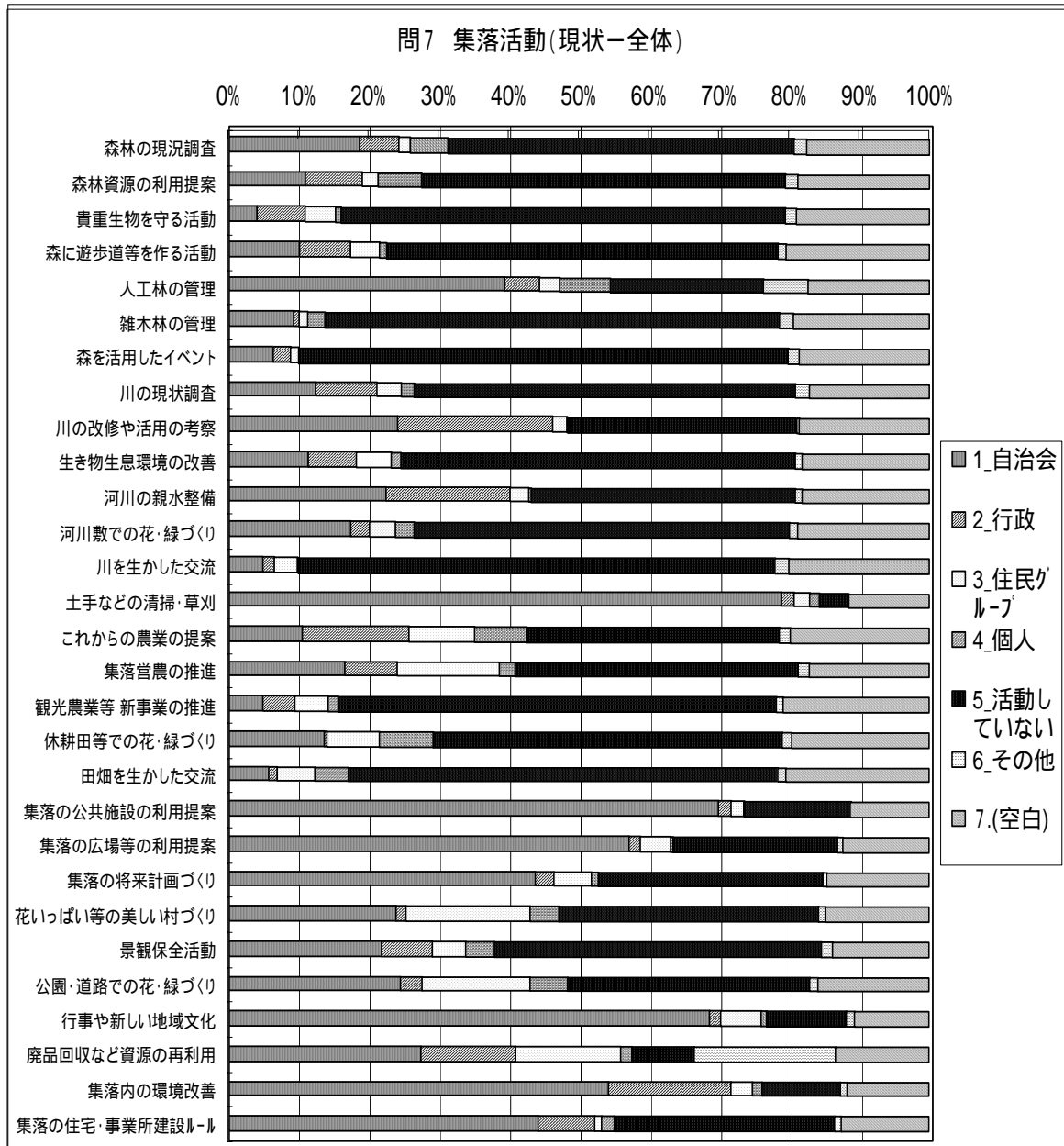


図7 - A 集落活動(現状-篠山市)

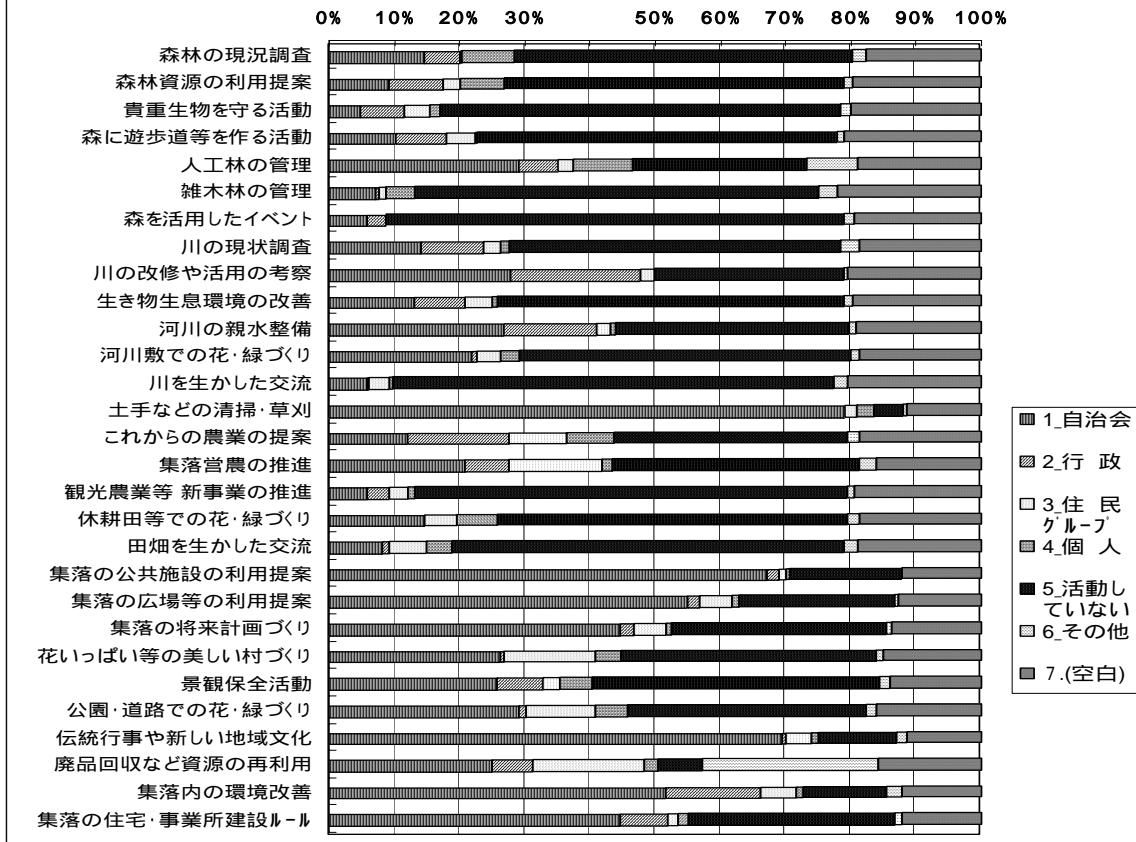
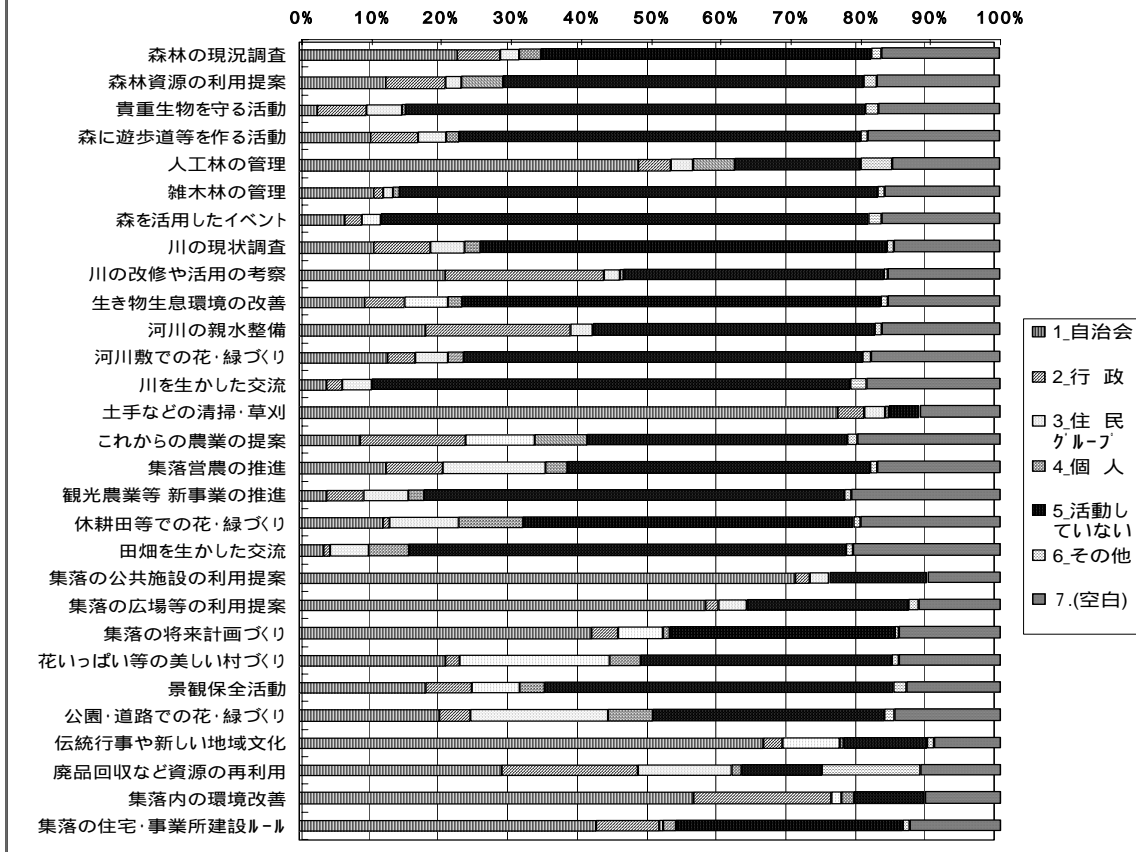


図7 - A 集落活動(現状-丹波市)



One point ②1 今後も集落活動を継続 / 行政・住民グループにも期待

今後の集落活動は、概ね活動が継続される傾向にある。ただ、全般に「集落（自治会）」主体がほとんど伸びず、「行政」「住民グループ」への期待が高まる傾向がみられる。

「行政」への期待が高いのは、森林や河川の調査・資源利用・河川改修・生き物の貴重種保護や生息環境改善・自然に親しむための整備、あるいはこれからの農業の提案や景観整備など、“資金や専門知識”などを必要とすることがらが中心。

「住民グループ」への期待は、田畑を生かした交流・集落営農・花と緑の関係である。

「集落」主体の実施意向が高いのは、河川敷・休耕田などを花と緑と美しい景観で包む活動、並びに集落での住宅等の建設ルール、あるいは集落の将来計画づくりである。

【B欄、今後、主に誰が取り組むのがいいですか（問7 続き）】

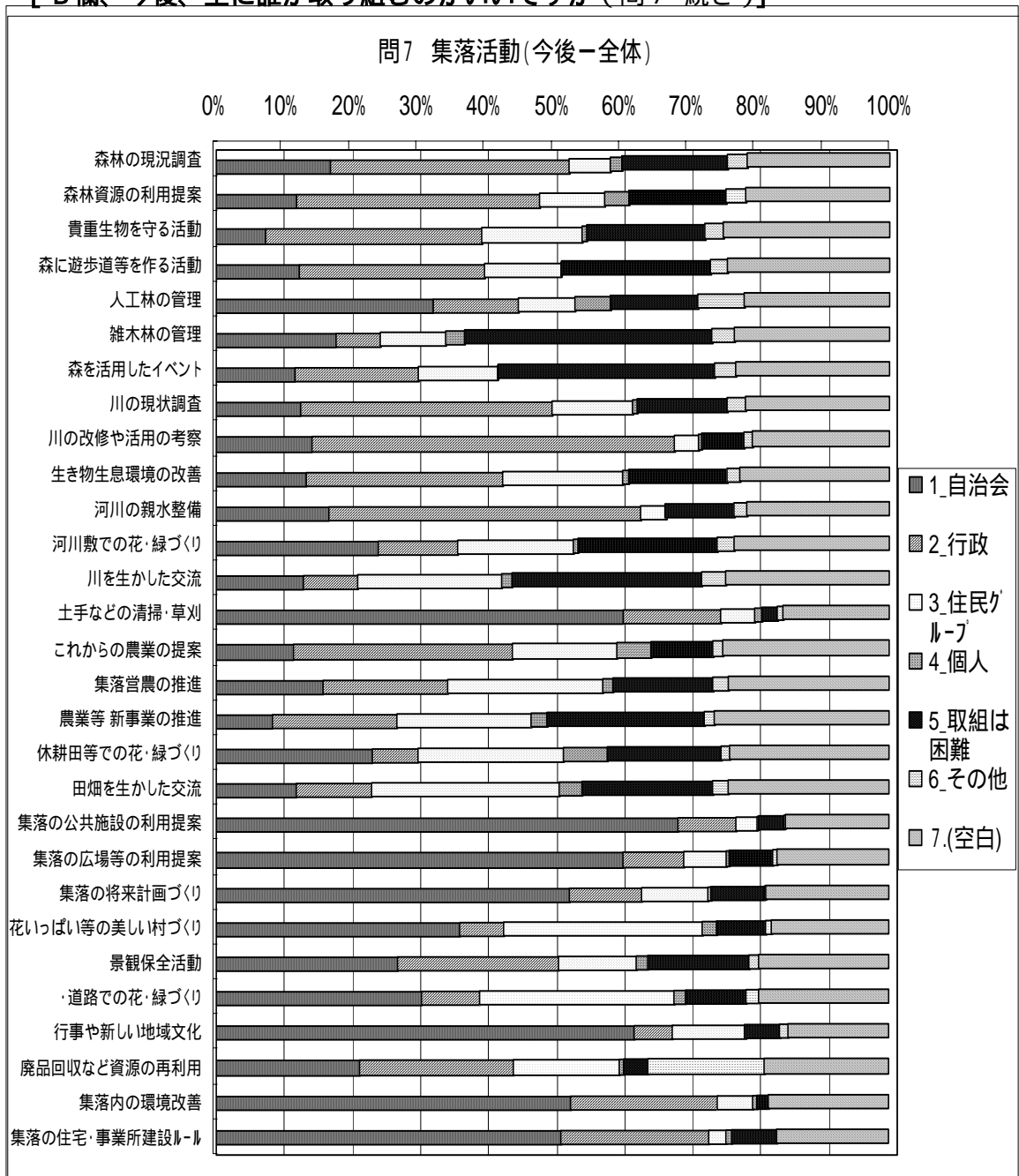


図7 - B 集落活動(今後一篠山市)

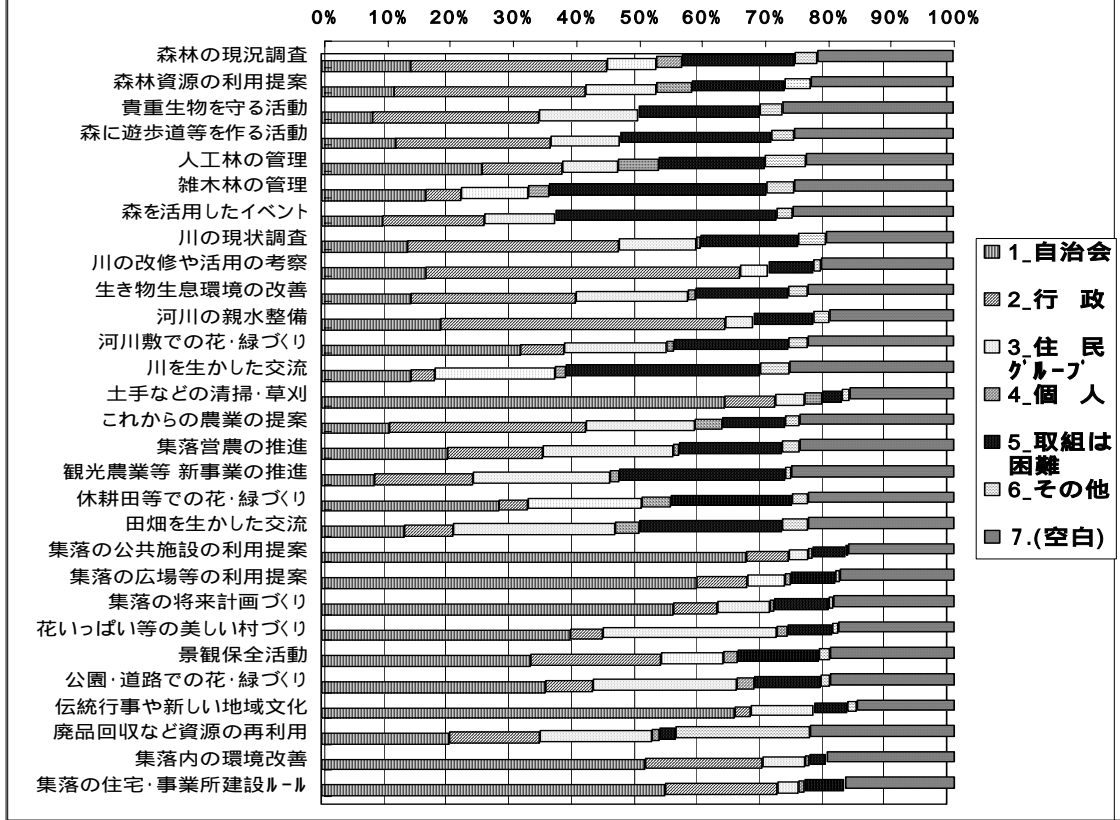
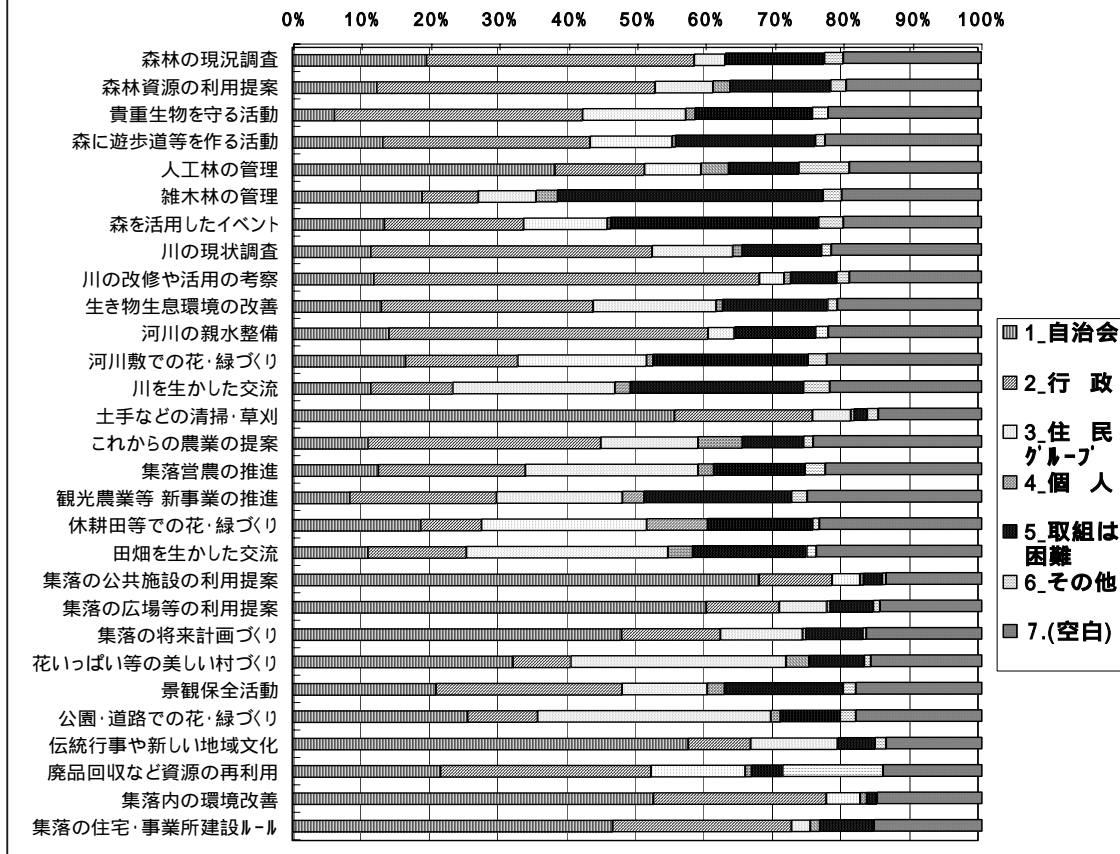


図7 - B 集落活動(今後一丹波市)



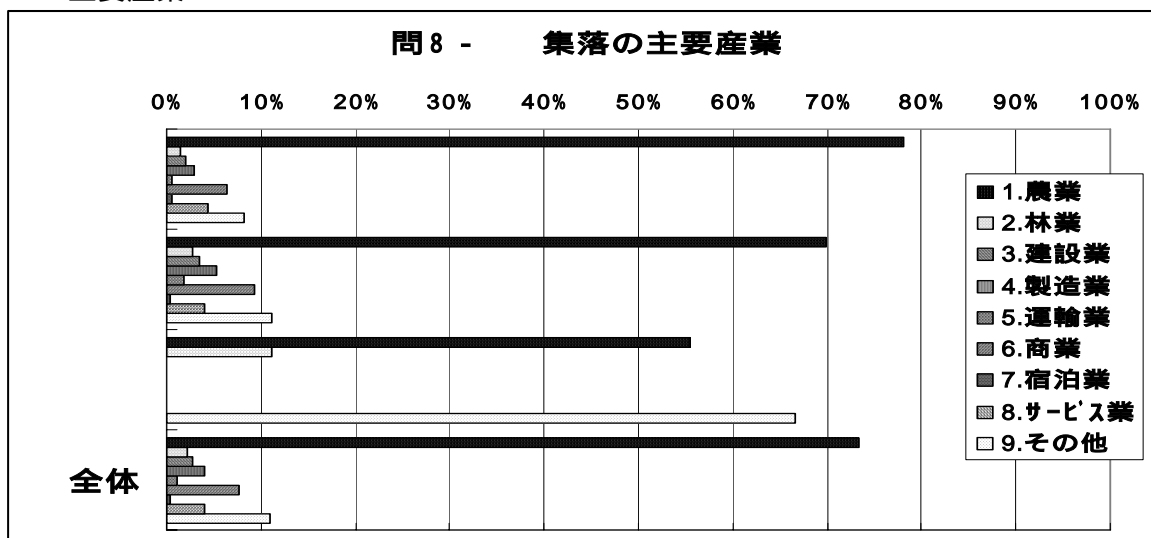
- 8 . 集落のこと、およびあなたご自身のことについて

OnePoint.②② 主な集落産業は「農業」

丹波地域の主な集落産業は70%強が「農業」であるが、大きく下がって10%前後で「その他」「商業」となる。

篠山市側で、「農業」の割合がやや高い。

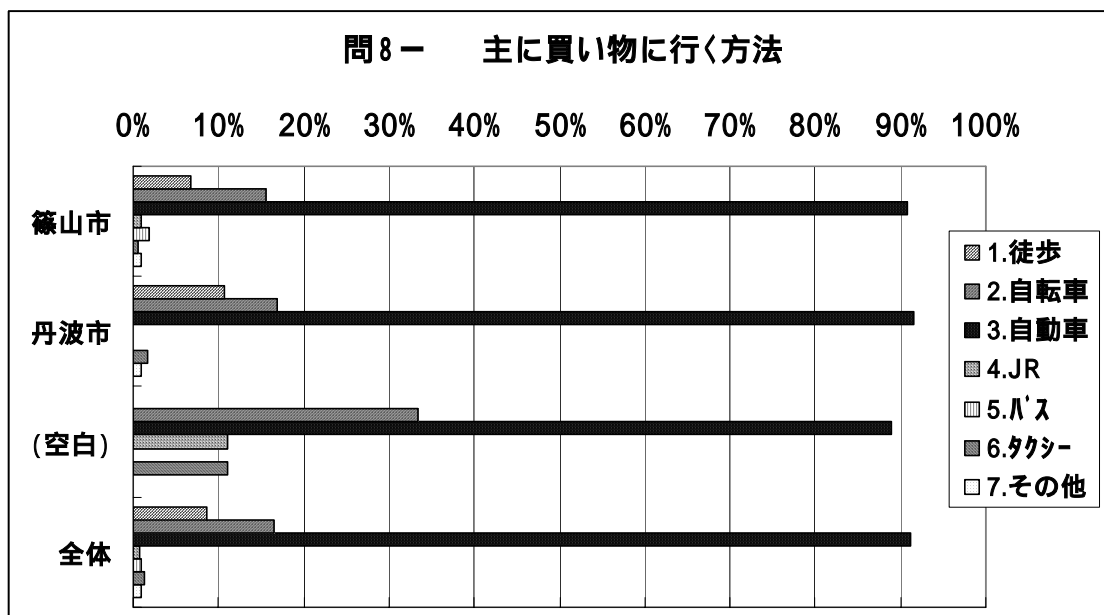
主要産業



one point ②③ “自動車を買物”が、丹波地域のライフスタイル

「自動車」利用が90%であるが、丹波市側で「徒歩」の割合がやや高く、徒歩圏など比較的近くに商業施設がある割合がいくらか高いことを示している。

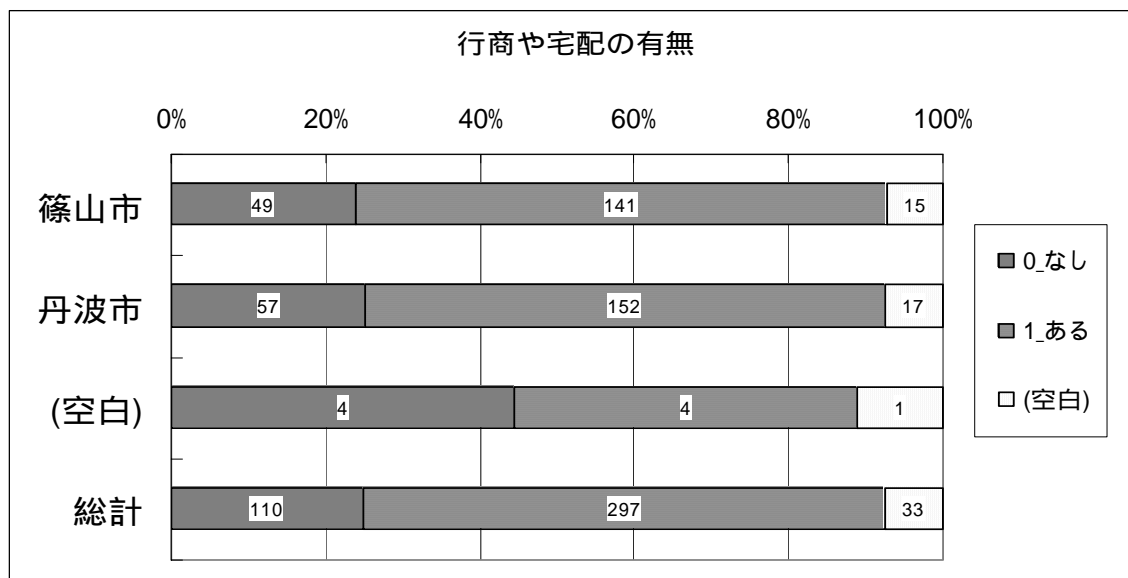
主に買い物に行く方法



OnePoint.24 「行商や宅配」が、今後の集落生活の基盤に

70%程度の集落には、「宅配や行商」などの生活支援サービスがある。

行商や宅配サービス等の生活支援サービスの有無

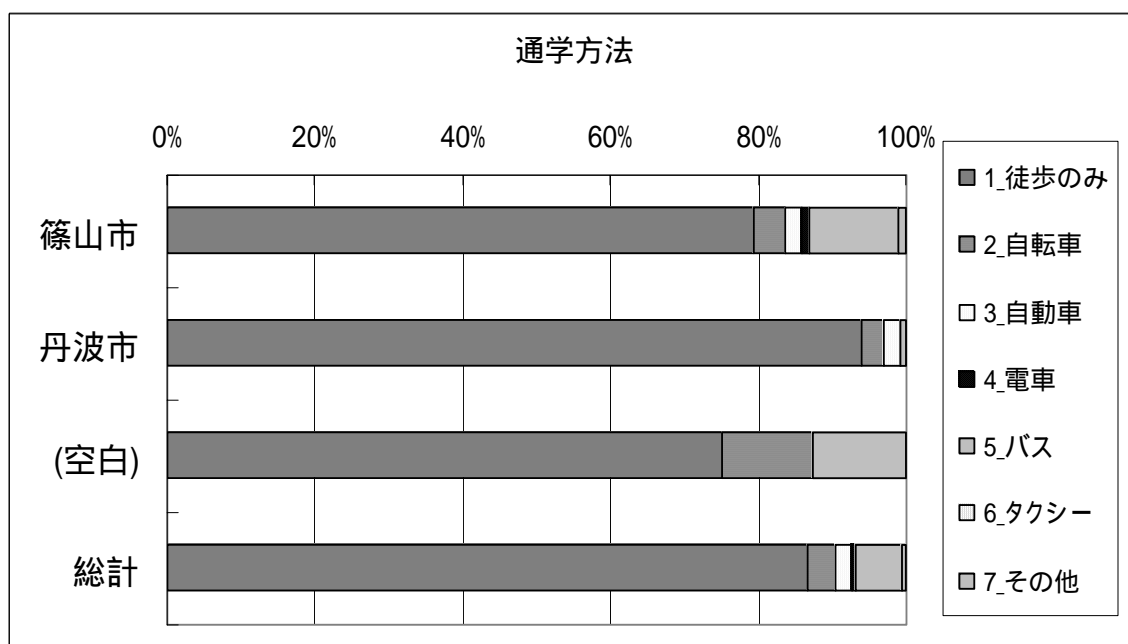


OnePoint.25 小学校の通学 ~ 「徒歩」が主、一部で「バス」も

90%近くの集落が「徒歩」通学だが、「バス」「自転車」通学もみられる。

特に、篠山市側が「バス」通学の割合がかなり高いが、これはスクールバスがあることの反映でもある。

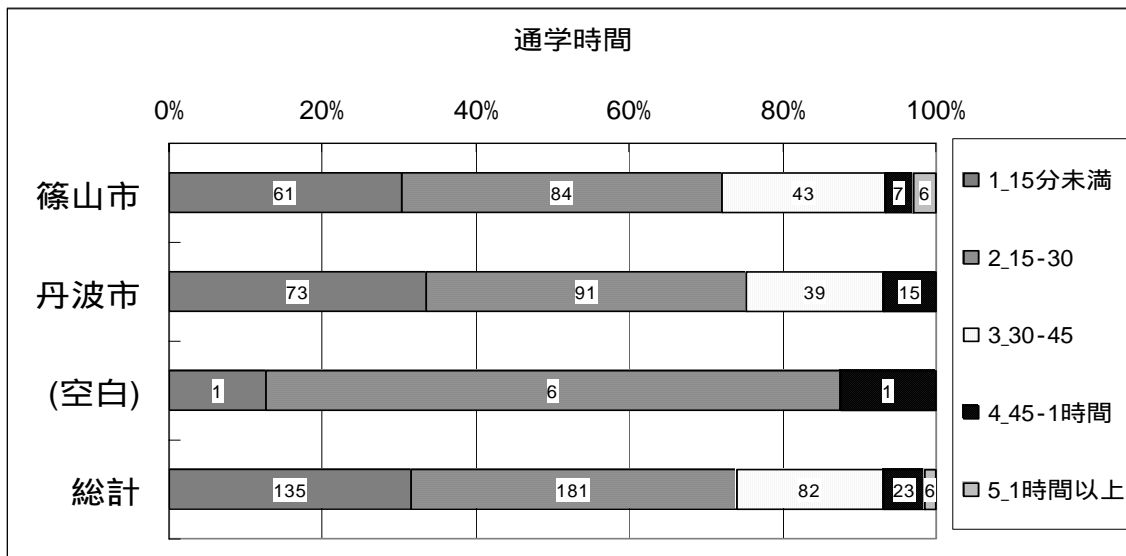
小学校への通学手段



OnePoint. ②6 小学校まで、大半が“45分以内”

小学校への通学時間は“45分まで”の集落が90%を超えている。遠距離通学の集落は少ないが、「1時間以上」の集落もいくらかある。

このアンケート結果から集落の推定平均通学時間は、丹波地域全体で約23分。丹波市側でわずかに短い、差は1分程度。（「1時間以上」は67.5分とみなした）
学校までの所要時間

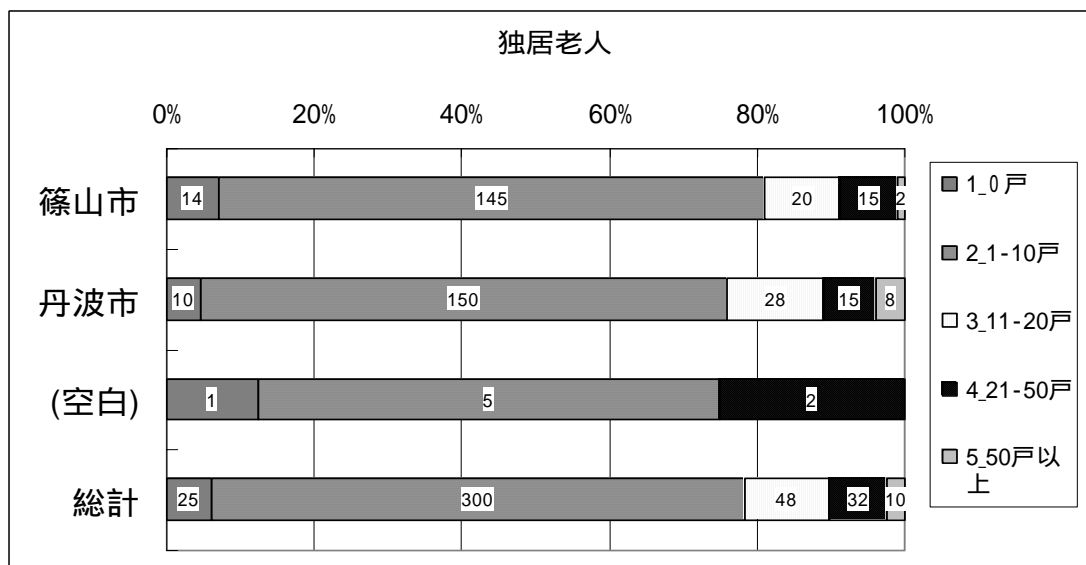


OnePoint. ②7 「独居老人」は、ほとんどの集落で1~10戸

独居老人世帯については、「1~10戸」が集落全体の70%程度であるが、「50戸以上」の独居老人世帯がある集落も一部だがみられる。

丹波市側で、独居老人世帯が多い集落の比率がやや高い。

独居老人(65歳以上)の世帯数



OnePoint. ②⑧ 主な仕事場～丹波市側で“域内”がやや多く

主な仕事場については、「丹波地域（域内）」が80%強である。

しかし、両市では明瞭な違いがある。丹波市側では90%程度が「丹波地域」であるのに対して、篠山市側では20%程度が「神戸・三田」に、「阪神間（県内）」「大阪」が10%前後などで、両市の立地や交通事情の違いが表れている。

丹波市側の「その他」のほとんどは、福知山市など京都府である。

なお、このあたりの回答については、集落というより個人（自治会長）の状況ともみなされる。

集落居住者の主な仕事場

